物質生命化学科 環境 ISO 支援

－ISO 事務局としての活動－

○鬼束優香 A)，宮部麻耶子 A)

A)応用分析技術系 機器分析・化学 WG

1　はじめに

熊本大学工学部物質生命化学科は、2004 年より 1 年生から 3 年生にかけての教育カリキュラムと ISO14001(環境 ISO)を関連づけて認証を取得している。講義及び学生実験を ISO14001 の人材育成システムとして独自に運用しており、図 1 に示すように主に学生実験を担当する教職員、学生の組織で活動を行っている。技術職員は ISO 取得準備から事務局として ISO 活動の中心を担い、現在事務局長 鬼束と事務局員 宮部の 2 名でシステム維持に関する業務をおこなっている。これまで、学生実験対応、委員会活動、内部監査・外部審査対応、環境マニュアルの刷新や安全対策等を行ってきたが、学生を含めて外部への ISO 活動の発信力が弱く、活動の不透明さや学生の ISO 認知に関する誤解を招いていた。本年度は ISO 活動を積極的に発信するため様々な取り組みを行ったので報告する。

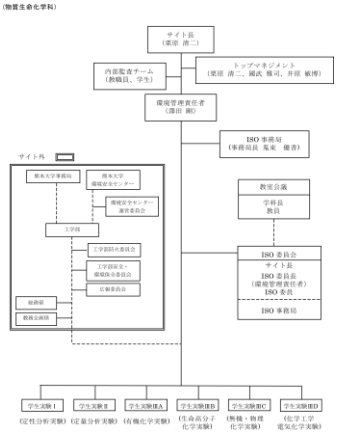


図 1 物質生命化学科 ISO 組織図

2　活動内容

2.1　ISO14001 ホームページ作成

ISO14001 認証取得当時から学科ホームページ上に ISO に関する記述と環境方針の掲載は行われていた。しかし、ISO に関する記述は講義名と研究題目例のみが A4 1 枚程度羅列されており、かつこれまで更新されていなかった。そこでホームページを新しく作成することとした。新ホームページでは以下のようなコンテンツを作成した。



図 2　旧 ISO ホームページ

・TOP ページ　・環境 ISO とは　・物質生命化学科の ISO

・物質生命化学科の ISO 取得の歴史　・活動紹介　・関連講義紹介　・FAQ　・リンク

詳細は http://www.chem.kumamoto-u.ac.jp/ISO/TOP.html より確認いただければよいが、物質生命化学科の ISO が一般的な ISO14001 とは異なり独自の人材育成システムであること、学生と教職員が一体となってシステムの運用、維持、改善を行っていること、などマスコットキャラクターを作成して内容を伝わりやすく腐心しながら作成した。平成 24 年度 5 月に無事公開することができ、閲覧した学生からは、とても見やすく興味をもてた、との評価が得られた。まだ学生のホームページの認知度が低いため今後は周知活動を行う。



図 3　新 ISO ホームページ(一部)とマスコットキャラクター

2.2　オープンキャンパス及び夢科学探検での広報



図 4　学生と参加者（夢科学探検）

オープンキャンパス及び夢科学探検では ISO 活動の広報を例年行っている。これまでは ISO 事務局が作成したポスターを内部監査員である学生が説明をするだけの広報となっており、閲覧者もほとんどない状況であった。本年度はオープンキャンパスではホームページを更新したのを機にポスターの内容を一新し、夢科学探検では、折り紙を導入に用いて広報活動を行った。折り紙を導入することで、閲覧者は増加したが真に伝わったかは定かではない。今後も継続して広報手段を改善する。

2.3　ISO リーフレットの作成

これまで電子媒体の ISO14001 の広報物は存在したが、紙媒体では物質生命化学科パンフレットに一文記載がある程度で ISO14001 の紙の広報物は存在していなかった。幸運にも環境 ISO を紙媒体で広報するための予算が得られたので外部デザイナーの協力を得て、新ホームページと広報用ポスターを元に原案を作成し 3 つ折りのリーフレットを作成した。例年の学生へのアンケート結果から、学生が持つ物質生命化学科の ISO 活動イメージと教職員のイメージが全く異なっており、それらのギャップをなかなか埋められないことから、物質生命化学科の ISO 活動を正確に伝えられるような内容を目指した。また、リーフレット作成にあたってマスコットキャラクターに名前があった方がよいとの提案から、物質生命化学科関係教職員、研究室所属学生を対象に名前の公募も行った。学生が発案した「いそっぷ(ISO っぷ)」に決定したが、教職員・学生いずれからも合計 30 個の名前が応募され、リーフレット作成に付随して学科内の関心を呼ぶことができた。リーフレットは 4 月より学部生に対して配布をはじめ、オープンキャンパスや夢科学探検、出前講義など外部へも積極的に配布する。



図 5　ISO リーフレット　表（左）と中（右）中川デザイン室

3　まとめ

事務局の業務はルーチンワークに陥りがちであるが、率先して PDCA サイクルを回して日々改善を継続する ISO の姿を具現化することは事務局の仕事として大変重要であると考える。本年度はこれまで手薄になっていた ISO の外部への広報活動方法を改め、ホームページの作成、イベントでの広報活動、リーフレット作成と大きく改善することができた。また、NPO 法人が取り纏めている 2012 年エコ大学ランキング「学生との協働・教育」部門で熊本大学が 3 位に入っており、今回の情報発信が功を奏するなど大学活動にも貢献することができた。カリキュラムに融合した環境 ISO は、熊本大学工学部の独自の教育システムとして JABEE にならぶ教育と認識されつつあり、ますます活動とその情報発信の重要性が高まるものと思われる。今後も ISO 事務局として ISO 活動の中心を担い、マンネリに陥らず活動ができるよう努めていく。